

第5回 佐世保市子ども・子育て会議 議事録（要約版）

日時：平成26年10月7日（火）19時～21時

場所：佐世保市役所本庁舎13階 大会議室

質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
<b>「児童健全育成関係分科会」担当事項</b>	
<p>(放課後児童クラブについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放課後児童クラブの利用対象となる子どもで、児童クラブを利用せずに児童センターを利用している子どもが相当数いる。このような子どもたちの数も量の見込みに際しては考慮すべきではないか。</li> <li>・ 放課後児童クラブは、女性の社会進出や家庭の貧困化など子どもを取り巻く環境が変化している中で大きな役割を担っている。70人規模の児童クラブは、量的にも質的にも適正なクラブにしていく必要がある。</li> <li>・ 指導員は免許取得が必要となるが、5年間は猶予が与えられる。だれでも指導員になれるということであるが、まずは、現役の指導員の優先的にして研修に参加させてほしい。</li> <li>・ 親の複雑、特殊な勤務体制にもしっかりと対応できる児童クラブであるべき。</li> <li>・ 小学校の余裕教室の開放について、佐世保市は</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在、放課後児童クラブの利用対象となる子どもで児童センターを利用している子どもの数は確かに把握していない。ただし、潜在的な数値(経済的な理由等で現在通えていない子どもの数)も含めて量の見込みは算出しており、児童センターを利用している子どもの数も含めて需要量は算出できている。</li> <li>・ 70人規模のクラブの分割化は、子どもの遊ぶ環境を整えるためにも必要との認識は持っている。ただし、まずは待機児童の解消を優先したいと考えており、ニーズ調査で浮かび上がった地域の10クラブを先に整備し、その後分割に着手したいと思う。来年度から着手となると、今以上に指導員の数が必要になるなど現場の混乱も予想される。</li> <li>・ 現役の指導員を優先したいとは思っているが、まずは子どもの安全面を第一に今後も検討していきたい。</li> <li>・ 子育てとは何かと考えた場合、真に必要なではない親が遅くまで子どもを預ける場合もあり、それで本当によいのかという疑問がある。また、行政サービスが子育てのどの部分まで必要なのかという部分もあり、そういった側面も考えながらサービスの提供をしなければならないと思っている。</li> <li>・ 小学校側に相談をすると最近は適切な教室</li> </ul>

質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
<p>消極的。国も推進していることであり、余裕教室の開放を積極的に行うべき。</p>	<p>を探してくれている。過去は、防火扉や避難経路の確保の要件から角部屋などを選定する必要があり、適所が見つからずこれまで取り組みが進まなかった。今後も余裕教室について要望があれば、教育委員会と話をしながら既存施設を活用できるようにしていきたい。</p>
<b>「施設型給付関係分科会」担当事項</b>	
<p>(幼稚園について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後、公立幼稚園が廃園となるのであれば、その地区での受け皿はあるのか。</li> <li>・ 保育料が現在より倍増するとの説明を受けた。現行の保育料のもとで入園した子どもについては、経過措置として卒園するまでは現在の保育料の水準を維持してほしい。</li> <li>・ (出席委員に対する質問) 新聞取材に対して、公立幼稚園が廃園となった場合、「すべてを私立幼稚園でカバーできない。市にも検討願いたい」との回答をされている。この点について見解を伺いたい。</li> <li>・ 第2子、第3子について、小学校3年生で線引きになるという考え方がよくわからない。小学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私立幼稚園や認定こども園が受け皿になると思っている。地域内の保育園に認定こども園になってもらえるようお願いをしながら確保に努めたい。</li> <li>・ 地域での説明の際は、国が示している保育料(5階層で最高額が25,700円)について説明をした。現時点では、市独自の負担軽減として13階層(最高額24,000円)とする案を考えている。この13階層については、0円になる家庭もあるし、現在よりも上がる家庭下がる家庭と様々なパターンが出てくる。今後は、幼稚園についても保育所同様に応能負担の考え方を採用する予定。公立、私立間のバランスを考慮するべきと考えている。</li> <li>・ (出席委員の回答) 「公立幼稚園の廃園について、私立幼稚園側はどう思うか」という内容でインタビューを受けた。それに対して、「公立には公立の役割があり、必要とされている人はいると認識しているが、すべてを私立幼稚園で受け入れるのは難しい。市も苦渋の決断だったのではないか」といった内容の回答をしたところ。</li> <li>・ 保育所は、6歳までの未就学児をカウントすることになっており、幼稚園は、小学校3年</li> </ul>

質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
<p>校に在学中の第2子、第3子というふうにはできないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育士の資格を持っている人の半数は他の仕事に就いている。また、保育士になっても5年以内に半数がやめている現状がある。保育士は休みが少なく、早朝から深夜までの勤務体制や処遇が悪いことがその理由。処遇改善が保育士不足の一番の解決方法。苦勞に報いる方策、保育士に対して正当な評価をすることを考えてほしい。</li> </ul>	<p>生までを第1子としてカウントすることになっている。国の制度がそのようになっており、この枠を外れると市独自の財政負担が発生してしまうため、財政規模に応じた制度設計が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育士不足の問題は全国的なことであり、国も事情は十分に承知しているし、市にも状況は伝わってきている。2年前から保育士の処遇改善として補助を行っており、新プランでも処遇改善を謳っている。</li> </ul>
<b>「地域子ども子育て支援事業関係分科会」担当事項</b>	
<p>(障がい児、グレーゾーンの子どもについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グレーゾーンの子どもたちは、それぞれに特徴が異なる。職員配置に際しては、数字上の決まりではなくそれぞれの子どもの特徴をしっかり踏まえたうえで受け入れ体制を整えてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員のさらなるスキルアップが必要と考えている。公立には、発達センターやすぎのこ園があり強みの部分。独自の障がい児支援という方策もできると考えており、今後さらに研究をしていかなければならないと思っている。</li> </ul>
<b>共通事項</b>	
<p>(新させぼっ子未来プランについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新させぼっ子未来プラン(案)については、今後、数値目標を盛り込んだり骨格を明確化させるなど、委員を含めて議論をしていくと考えておいてよいか。</li> <li>社会全体で子育てを支援していくという中で、育児の外注化にならないよう保護者の責任とやるべきことのバランスをどう図っていくか、今後議論をしておく必要があると思っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在はあくまで計画の段階。これに市の財政状況などを加味して事業の肉付けをしていなければならない。委員には計画づくりだけではなく、新プランに掲げる目標の進捗管理もお願いしようと思っている。絵に描いた餅にならないよう、委員の意見を伺いながら実のあるものにしていきたい。</li> </ul>